

近年めざましい科学の進歩や、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中で、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、教育に対する期待や要求は以前に増して大きくなってきています。このような中で、次代を担う子どもたちに求められているものは、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められています。

一方、近年の国内外の学力調査の結果などから、我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題がみられると指摘されています。

学校の教育活動を進めるに当たっては、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならないと考えています。

そして、学校におけるすべての教育活動は、学校の教育目標の具現化を目指す意図的な営みであると同時に、社会で自立できる人材育成も担っています。校内研究もまた、学校の教育目標を達成するためにどうすればよいかを全職員で追究する研究活動であるといえます。

本校では、主題を「問い続け、学び続ける子どもたち」とし、研究に取り組み、3年という一区切りを迎えました。これからの社会を生き抜く子どもたちには、身の回りにあるさまざまな問題を自分たちの力で解決していく能力が求められています。本校ではそれらの資質・能力を、①めざす力、②つなぐ力、③実感する力として、対象とかわり、そこから自らの力で問題を見つけ、対象・他者・自己との対話を繰り返しながら問題を解決していく子どもたちを育成することが必要であると考え研究を進めてまいりました。

1年次は、「問い続ける」とはどのようなことなのか、「学び続ける」とはどのようなことなのか、各教科部会において考えを出し合い、それぞれの教科の特性に応じて検討してまいりました。その中で、「子どもたち一人一人と学習課題との接点を見出し、主体的に学び続ける姿をめざすこと」、「子どもの理解を深く行った上で、子ども同士の関係性も適切にみとること」を心に留めて実践を行い、いくつかの成果を得ることができました。

2年次からサブテーマを設定し研究の視点を明確にしながらい進めてまいりました。

2年次は、「子どもの言葉でつくる授業」としました。これは、ご指導いただいている慶應義塾大学教授 鹿毛雅治先生に「子どもたちの学びの筋では決着がつかないのに、教師の予定で次に進んでいることや、子どもと教師のやりたいことにズレがあるような授業を展開している」とのご指摘をいただいたため、改めて一人一人の子どもを捉え直そうという思いのもと設定しました。

3年次は、「子どもの言葉と学びの深まり」とし、子どもの言葉によって、学びが深められたかどうかを検証することが、問い続け学び続ける子どもたちの姿が明らかになると考えました。

また、3年間をとおして、学級に温かい雰囲気の流れ、どの子にとっても居心地の良い、聴き合える、学び合える学級風土を大切にまいりました。

今後も、研究によって積み上げてきた成果を生かし課題を解決しながら、確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもを育てていくためには、日々の継続した実践を通してさらに研究を積み上げていく必要があります。当たり前のことですが、ともかく「継続は力なり」です。個々の継続した積み重ねを忘れてはなりません。一人一人がさらに自己研修・自己変革を図り、個々の指導力を向上させていきたいと思えます。

わたしたちの研究活動にあたり、多くの先生方にご指導、ご助言いただくことができたこと、心より御礼申し上げます。直接貴重なご指導ご助言を賜りました慶應義塾大学教授 鹿毛雅治先生には、平成27年度より毎年、本校に来ていただきご指導を賜りました。また、今年度は國學院大學教授 田村学先生にもお越しいただき、記念講演やお二人を含めた鼎談という形でご指導いただき、深く感謝いたします。

今日まで、大勢の皆様からいただいたご意見、ご指導を糧に、今後も研究を進めていく所存です。ささやかではありますが、研究成果としてまとめた紀要を多くの方々にご高覧賜り、ご教示、ご批評いただければ幸いに存じます。